

Rotary



# 白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2019～2020年度クラブ目標

『共に手をつなごう  
ロータリーのもとで』

会長 中目 公英  
幹事 兼子 聡



ロータリーは  
世界をつなぐ

2019-20年度国際ロータリーテーマ



## 第1594回例会

令和元年 8 月 8 日 (12:30～13:30)

○ソング

- 奉仕の理想 ●日も風も星も

○スマイルBOX

- ガバナー 芳賀裕様

- ガバナー補佐 中野義照様 (今日は、お世話になります。1年間、ご協力よろしくお願ひします。)
- 分区幹事 西牧丈夫様 (本日は大変お世話になります。ガバナー補佐をよろしくお願ひ申し上げます。)
- 中目公英会長 (芳賀裕ガバナー、中野義照県南分区ガバナー補佐、西牧丈夫県南分区幹事、ようこそ白河西RCにお越しいただき、ご指導を賜りまして誠にありがとうございました。)
- 永野文雄会員 (芳賀ガバナー、中野ガバナー補佐さん、公式訪問ありがとうございました。オブザーバーで参加させていただき、勉強させていただきました。ありがとうございます。)
- 渡部勝也会員 (本日は芳賀裕ガバナーご指導ありがとうございました。今回1年分まとめてスマイルします。)
- 関谷亮一会員 (芳賀ガバナー様、中野ガバナー補佐様、西牧県南分区幹事様、ようこそお越しいただきました。本年一年間宜しくお願い致します。)
- 宮本多可夫会員 (芳賀裕ガバナー、本日は朝早くから公式訪問、ご指導誠にありがとうございました。今後とも身体に気をつけてご活躍を祈念しております。)
- 佐藤清作会員 (芳賀ガバナーの公式訪問を歓迎いたします。)
- 金田昇会員 (芳賀ガバナー、中野県南分区ガバナー補佐、本日はご指導ありがとうございました。)
- 成井正之会員 (芳賀裕ガバナー様、中野義照ガバナー補佐様、西牧分区幹事様、公式訪問、ご指導ありがとうございました。)
- 前原俊治会員 (芳賀裕ガバナー、中野ガバナー補佐、西牧幹事ご来訪有難うございます。芳賀ガバナーご指導有難うございました。)
- 吉田充会員 (芳賀裕ガバナー本日はご指導いただきありがとうございます。)
- 吉野敬之会員 (本日は芳賀ガバナー卓話並びにクラブ協議会での貴重なお話し有難うございました。今年一年よろしくお願ひ致します。)
- 齋藤孝弘会員 (毎日あついですね!! みなさんお体ご自愛ください。)
- 堀田一彦会員 (芳賀裕ガバナー本日はありがとうございました。)

▶第1594回例会出席状況 (R元年8月8日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	37名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	12名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	49名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	56
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	87.50%



ガバナー公式訪問クラブ協議会

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

## 本日のプログラム

### ■会長の時間

中目公英会長



それでは、公式訪問の例会を開始します。一言お話をさせていただきます。今日は日本ロータリー100周年記念の特別な鐘だそうです。今日のために中野ガバナー補佐が持ってきていただきました。では、特別な鐘を突かさせて例会を始めさせていただきます。

皆さん、こんにちは。公式訪問例会にこんなに沢山の会員の方々にご参加をいただきまして本当にありがとうございます。まず初めに、お客様のほうをご紹介させていただきます。国際ロータリー第2530地区、芳賀裕ガバナーです。同じく、国際ロータリー第2530地区、県南分区、中野義照ガバナー補佐です。同じく、国際ロータリー第2530地区、県南分区、西牧丈夫分区幹事です。今日はガバナーの卓話30分必ず確保しないとイケないというふうにお達しが回っておりますので、会長の時間は手短かにさせていただきます。今週の月曜日、裏磐梯のほうに会長と幹事と2人行きまして、マーク・ダニエル・マローニー国際ロータリー会長の歓迎晩餐会のほうに参加をしまして、まさに国際ロータリーの国際色豊かな会合に参加をし、勉強をさせていただきました。それから今日、このような公式訪問、一番緊張しております何ぞ喋っていいんだかわかりませんが、今日の午前中、会長幹事会でそしてクラブ協議会でいろいろとご指導していただきました。我がクラブの会員一人一人の皆様方も、委員長さんが受けたご指導の内容を今年の年度中にできるものは実現していただき、今年の年度中に難しいものは次の年度、吉野会長エレクトの時代に実現をしていただくというふうな形で西クラブ全体が継続的に発展していきますようお願いを申し上げまして本当に一言だけの会長の挨拶にさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。



### ■幹事報告

兼子聡幹事



○国際ロータリー第2530地区：「社会・国際奉仕委員会」「学友・平和フェロシップ委員会」「青少年交換委員会」「米山記念奨学会委員会」合同セミナー開催案内

○国際ロータリー第2530地区：公共イメージ・IT委員会セミナーのご案内

- 国際ロータリー第2530地区：青少年奉仕委員会セミナーのご案内
- 泉崎村長 久保木正大様：CKB大会の後援について
- 郡山南RC：市民公開講演会のご案内
- 国際ロータリー第2530地区青少年奉仕委員会、学友・平和フェロシップ委員会：ポスターの回覧について

### ■お客様の挨拶

○2019-2020年度国際ロータリー第2530地区



県南分区ガバナー補佐 中野義照様

皆さん、ただいまご紹介いただきました2019-2020年度県南分区ガバナー補佐の石川ロータリークラブ所属の中野義照と申します。私、2003-2004年に幹事をやった時に、こちらから林ガバナー補佐を輩出してガバナー補佐が林さんで分区の幹事が永野さんだったんです。まさか、私がこの何十年後にこの立場になるとは思いもしなかったんですけども、今年一年皆さんよろしくお願ひしたいと思ひます。今年のテーマは「世界をつなぐ」ということですので、まずは県南分区を皆さんと一緒につないでいきたいと思ひております。一年間、よろしくお願ひしたいと思ひます。お願ひのついでに、まず一つは多分会長からもお話あったと思ひますけども、青少年交換留学生を県南分区から一人出せと言われておりますので、皆さんのほうでご検討していただきたいと思ひております。それともう一つは、RLIロータリーリーダーシップ研究会というんですけども、中目会長が出ていらしたんですけども、ディスカッションリーダーが地区全体で2530地区では足りないようなんです。それで、分区から5~6人お願ひしたいということですので、また第3回目のRLIの勉強会もありまして、その後もまたあるみたいですので、是非若い方が是非ロータリーを理解するために出席していただきたいと思ひております。それと三つめが、私白河西ロータリーの30周年の記念誌をちょっと今日見まして、姉妹クラブですか結構多くて、かなり交流はしてらっしゃってその辺が一番の特徴なのかなと思ひました。それと、マイロータリーに登録されてる数が県南分区ではもちろん一番なんですけども、大体90パーセントですか、クラブ協議会でも芳賀ガバナーが言ってたんですけども、登録するだけだとかだんだん消滅しちゃいますので、必ず開いていただいて規程集の黄色のページの今薄くなった厚い部分がそこに全部書いてありますので、是非開いていただいて、あとロータリークラブセントラルというのがありまして、そこにクラ



ブの特徴とか何人とかそういうのも書いてありますので、ほかのクラブを見たい時はそこを見ていただくと何でもわかるようになっておりますので、その辺も併せて登録だけじゃなくて活用していただきたいなと思っております。それと8月23日、会長幹事会がありまして、それはもう予定に入ってる場所ですので是非ご出席のほうよろしく願います。最後に県南分区のIMなんですけど、来年の2月9日行いたいと思います。日曜日で「八幡屋」さんでやりたいと思いますので、是非ご出席のほうよろしく願います。以上、一年間よろしく願います。

## ■委員会報告

### ○シスター委員会

青木大委員長



シスター委員会からお願いがございます。9月6日の日に、米沢中央ロータリークラブさんのほうに表敬訪問をいたします。10時頃バスでこちらを出発していく予定をしておりますので、参加をされる方を出欠を取っておりますので、出欠を出してない方は出欠をお願いしたいと思います。それと9月26日に移動例会としまして、本宮の「アサヒビール園」のほうで米沢中央さんと一緒に合同例会を行います。こちらのほうの出欠も回しておりますので、返事をしていない方は記入をいただきたいと思っております。それとCKBのほうで今年このCKBの監督をしている青木監督のほうで指揮をとってる中学生の全南WESTチームというのが全国大会に出場することになりました。なかなかできることじゃないんですけど、8月12日から横浜スタジアムで試合が行われるということで、この白河の中央中からも3名の選手が出ていますし、西郷からも4名の選手が出てたり、多くのこのCKBに関わっている子供たちが全国大会に出場したということで、来週の例会もまた楽しみにしていただきたいと思っております。

## ■本日のプログラム

### ○2019-2020年度国際ロータリー第2530地区



ガバナー 芳賀裕様

皆さん、こんにちは。2019-2020年度、国際ロータリー第2530地区ガバナーの福島中央ロータリークラブ所属の芳賀裕と申します。一年間、皆様には大変お世話になります。よろしくお祈りを申し上げます。今日はRIの今年度のお話、そして地区の目標などについてお話させていただいて、皆様方に今年度の事業執行にあたっての参考にしていただきたいと思っております。今日お手元にコピーを差し上げております。二つでございますが、一つは、RI会長エレクトのテーマ講演2019年国際協議会というもの。それから、「つなごう奉仕の心」というその二つ資料をお配りしてと思っております。まず、RI会長エレクトのテーマ講演のほうからお話をさせていただきます。こちらは今年の一月に、ガバナーエレクトがサンディエゴに召集されま

して、一週間ホテルに缶詰めになって研修を受けてきたわけですが、世界から538名のガバナーエレクトが集まりました。その中で当時の会長エレクト、今の会長のマーク・ダニエル・マローニーさんがお話をされた内容でございます。今年度、マローニー会長は4つの重点事項ということをお話をされております。それについて若干お話をいたしますと1枚めくっていただきますと、その2ページ目の下のところになります。一番下の段落になりますが、最初の強調事項はロータリーを成長させることです。私たちの奉仕活動やプロジェクトのインパクトを成長させること。また最も重要なのは、これからより多くのことを達成するために会員基盤を成長させることであるというのを第一の強調事項として挙げられております。私たち、職業を通して社会に奉仕しようという理念のもとに集まっているロータリアンでございますので、多くの職業の方々、そして多くの会員と接する機会を多く持つことで、自分を磨き自分の職業を磨いていくという機会にしなければいけないということから、できるだけ多くの会員を集めようというのの一つでございます。それからもう一つは、我々100年も200年も生きてるわけにいきませんので、このまま何もしないでいきますとロータリークラブは消滅してしまいますので、我々の奉仕の理念というものを引き継いでいく、そういったことを広めていく、そのためには新しい会員を入れていくという、そういう必要があるということから会員基盤を充実させていきたいと思いますという強調事項になっていくこととなります。それから二つ目の強調事項ということで、次の3ページの下のほうになりますが、一番下の段落のちょっと上ですね。次年度の二つ目の強調事項は、クラブよりも家庭に近いところにあります。それは家族です、ということをお話しております。これは特に若い会員の場合ですと、家庭サービスとロータリーの活動とどちらを優先しようかという、そういう選択をしなきゃいけない場面がいろいろあるかと思っております。マローニー会長はそういう選択を迫るのではなくて、ロータリーの中で家族と一緒に楽しめるような行事を多く作ってほしいと。ロータリーの中で家族サービスもできるような、そういった行事を多く持っていただきたい。そんなことを仰っております。それから三つ目の強調事項として言っておりますのがその次のページになります。次のページの上から三つ目のと



ころですね、段落が。三つ目の強調事項、それは忙しく仕事をしているロータリアンもロータリーのリーダーとなれるようにするための道を開くことですよということを仰っています。ややもすると会長というのは本当に忙しいなあと思われたい一生懸命の会長も多いんですけども、そうしますと来年あなた会長エレクトになってねと言われると、いやそんなこと私はできませんので辞めさせてもらいますという退会する方も結構いるやに聞いております。そういうことのないように会長も自分ですべてやるということではなく、皆さんと役割を分け合って、会員の方々もいろいろな委員会を通して会長の役割を分担していくということで、会長、幹事の責任の重さを軽くしてあげてくださいということを仰っています。そうすることで、会長になったりガバナー補佐になったりそしてガバナーになったりというようなステップを、そんなに梯子をかけるようなステップではなくもっと低いハードルにしてくださいとそういうことを仰っています。このマローニー会長は入会されたのは多分26くらいの時ですね。そして30歳で会長をなさって、34歳でガバナーをなさってる。そういった方なので、多分若い娘さん二人おられるんですが、その娘さんと奥様ゲイさんと一緒にロータリーを楽しんでこられたということを仰っています。そして、四つ目の強調事項として挙げておられるのがそのページの下のほうですね。一番下の段落のちょっと上になります。四つ目の強調事項は、長年に渡るロータリーと国連との歴史的な関係に焦点を置いていましてということになります。このロータリーと国連との関係、これを再認識してみんな国連と一緒にいろいろなことをまた取り組んでいきたいと思いますということを仰っています。国連は来年、設立75周年という節目の年になるということになります。それで、この国連を作る時にロータリアン60名が設立に尽力をされて今の国連ができたと言われております。そして、その後もいろんな場面でロータリアンが国連の事業に関わっておられる。そして、一番皆さんお馴染みのポリオ根絶活動についても国連と共に一生懸命やっている、そういう状況にあります。今後も教育問題であるとか、水環境の問題であるとか、様々な事業を国連と一緒にやっていく場面は多いだろうということから、国連との関係をもう一度考えていきたいと思いますということを仰っておられます。このような四つの強調事項というのをもとに今年度の事業をRIでも考えている。それで、地区としてもそういったRIの会長方針を受けて地区の活動目標というものを決めさせていただいております。それでこの「つなごう奉仕の心を」というテーマであります。これは今度の10月の地区大会の時に大会テーマとして掲げさせていただいております。今の4つの強調事項というのを話しているマーク・マローニー会長です。

～マーク・ダニエル・マローニー会長 ビデオ上映～



ということでありまして、これは8月4日の日にうちの福島中央ロータリークラブの30周年の記念例会でマローニーさんお話をして熱を入れて喋ってましたら、震度4強の地震がおきまして俺が揺らしたんじゃないなんて言っちゃったけども、そんな元気のある会長でございます。それで、うちの地区としてはどんなふうにしていこうかということで、「つなごう奉仕の心を」というテーマを大会テーマとして掲げております。会長エレクトの皆さん方にもいろいろお話をさせていただいたんですけども、ロータリーの話はロータリーの例会や各委員会や、そしてファイヤーサイドミーティングであるとかIMであるとか、いろんな場面でロータリーについてみんな話し合う、そういった機会を多く持っていただきたいということをお願いをしております。ややもすると、会長スピーチ、会長の時間でもロータリーの話が出てこないで終わっちゃったというようなこともあるクラブもあるようでございますので、ロータリーの話をしてできるだけしてほしいということをお願いをしております。西クラブさんもベテランの方々沢山おられるので今更ではありますけども、ロータリーは1905年2月23日にシカゴでポール・ハリスが3人の仲間を募って集まったというのがロータリーの創立記念日ということになっております。この1905年当時、シカゴの町というのは商業道徳が地に落ちている。そして、信頼ができる仲間ということも少なかったというふうに言われております。その中でポール・ハリスが信頼できる人たちと責任のあるような仕事をきちんとやっていきたいという思いから、このロータリーの集まりを作ったということになります。日本にポール・ハリス一回だけ来られたことがあるんですが、その時に日本のロータリアンが何でロータリーを作ったんですかとポール・ハリスに聞いた時に、ポール・ハリスは寂しかったからですという答えをしたというのは有名な話であります。確かに寂しかったんだろうと思うんですね。その写真はナイアガラの滝に船が進んでいるところなんです。すごい滝です、ナイアガラ瀑布は。そういう先が見えないようなところに光を求めてポール・ハリスたちも進んで行こうとしたのかなというふうな思いがいたします。その4人の人たちをオリジナルメンバーということで呼んでおります。5番目からの人は誰かが推薦をして入っているということになります。この5番目のハリー・ラグルスという

のが、友の8月号の縦組みの表紙のイラストで今回出ております。ロータリーソングを最初に歌った、みんなで歌おうとって歌った人です。余計な話ですけども、先程歌っていただいた「日も風も星も」これは福島市の名誉市民であります古関裕而先生が作曲されておりますが、古関裕而先生は世田谷ロータリークラブの14代会長であります。世田谷クラブの10周年の時に作った歌であります。楠本憲吉さんが作詞をされておりますということでもあります。そして1905年にできたロータリーで続々会員が入ってきたんですが、その翌年にドナルド・カーターという弁護士さんに入会しませんかとお誘いしたら、ドナルド・カーターは自分たちのことだけ考えているような団体はいづれなくなっちゃうよと。そんなとこ入りたくないというお話をされたそうであります。そこで会員がそういう事を言われたのではちょっと困ると。何か我々自分たちのことだけでなくシカゴの町のことを考えたことでやっていこうかということで、公衆トイレを作ろうということで初めて奉仕活動をしたということをお願いしております。そこで親睦と奉仕というロータリーの二大看板ができたというふうにいわれております。日本ではそれから15年遅れて、1920年の10月22日に東京ロータリークラブが米山梅吉さんを会長に誕生しました。来年がそのちょうど100周年ということで、このロータリーの鐘を各会長さん方に突いていただくために持って歩いております。114年も同じ組織が続いてきたのはなぜだろうということではありますが、そこには不易ということを考えなきゃいけないだろうと思います。その変わらない部分は普遍的な事項ということで我々がよく口にしますが、ロータリーの奉仕の理念、二つの標語で表されてます。「超我の奉仕」と「最も良く奉仕する者最も多く報いられる」という、その二つの標語で表されているロータリーの奉仕の理念であります。これはずっと守ってきておるわけでありまして、これがロータリーの目的に記載され、そして唱和していただいております4つのテストなどに簡略化されております。そして、今ロータリアンが備えておかなきゃいけない資質とロータリアンらしいものということで中核的価値観というのを我々考えております。それは、親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ、こういう5つの資質がロータリアンに備わっているものだと。特に高潔性、職業を高潔なものにして社会に役立つものにしていこうというもの。それから、多様性。多様な職業の方々が集まって、多様な国々、そして多様な年齢層が集まって活動していくというこの高潔性と多様性はライオンズとは大きく異なるものだろうといわれております。そして、世界に対してロータリーはこういう団体ですよということを表明したのが3年前であります。ロータリーのビジョン声明というものを出しております。「私たちロータリアンは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」ということを世界に向けて公表しております。ロータリーがいろいろな事業に取り組む際に、このビジョン声明が必ず頭に出てきます。枕詞のように今なっております。自分自身の中で、地域社会で、そして世界でという順番になるのか

などはと思いますが、手を取り合って行動する世界、これを我々は目指しているんだということでありまして、私たちロータリアンとはというのは英語では、Together weで始まるんですね。一緒に私たちはやってみようという、そういう呼びかけになっております。I serveという言葉と We serveという言葉がロータリーができた当初20年くらいいろいろ議論がされたわけですが、それが1923年に一応の決着をしたと。それが決議23の34というものであります。そこには、ロータリーは職業を通して奉仕する人たちの集まりですよということと、社会奉仕はその自分を磨き自分の仕事を磨いていくための実験として社会奉仕活動をやりましょうというそういう表現が出ております。ですので、社会奉仕活動は自分たちの職業奉仕のための実験、研究材料というふうにいわれていたんですね。様々な奉仕をやってみましょうと。その中で自分の仕事に役立つようなことをそれぞれが取り入れてやってみようということとスタートしたんですが、この社会奉仕活動が今いろいろな種類に広がって、いろいろな地域に広がって、世界にまで今広がっておりますので、ロータリーの行う奉仕活動は責任を持ってやっていかなきゃいけないくらい大きな活動に今なってきているということでもあります。ただ、先程申し上げた職業奉仕という普遍的なものについてはずっと変わらずに我々は守っていかなきゃいけないし、なおかつ大きく育ってきた奉仕の部門も社会奉仕の部門も我々責任をもってやっていかなければいけないというふうに、114年の間に大きく変わってきたということを我々考えておかないといけない。その革新性と柔軟性を重視しましょうというのが今の国際ロータリーの流れでありますので、このイノベーションとフレキシビリティというこれを今後もやってかないといけない。このままずっと同じことやってたら、いづれまた壁にぶつかるということになりますので、革新性と柔軟性というものを重視していかないといけないということでもあります。そこに映ってる人、小さくて見えないと思いますけども、国際ロータリーの事務総長という役職なんですね。ジョン・ヒューコという事務総長です。今年の7月から、この人の呼称は肩書はCEOになりました。これも4月の規定審議会で決まったんですね。最高経営責任者。ロータリーで何でそんな人が必要だという話もあります。会長がいるのに何で事務総長がそういう立場なんだということですが、先程申し上げたようないろんな活動を幅広くやって、継続的に責任を持ってやらなきゃいけないという、そういう事務を取り仕切っているのがこのジョン・ヒューコでありますので、そういった意味で責任者という表現が使われるということになったんだろうとは思いますが、この人は5年任期なんですね、事務総長というのは。5年任期で、今二期目に入っております。もうしばらくこのジョン・ヒューコという名前がいろいろなところに出てくると思いますので覚えておいていただきたいと思っております。そんなことを114年の間にいろんな変化がありましたよと。だけど今、継続して世界に122万人のロータリアンがいる。いろんな活動してますよということでありま

す。今年度、地区では活動目標をいろいろ決めさせていただいて、各クラブの活動の指針にさせていただこうということをお願いをしております。詳しいことは中野ガバナ補佐がこれから公式訪問で4回くらいまたおいでになりますので、私の代わりにいろいろお話があると思いますのでお聞きいただきたいと思います。その中でちょっと一つだけ、一つ二つ飛ばしていただいて活動目標の3というところですね、この3のとこの一番下に4番目、あの時。あの時というのは東日本大震災のことでありますが、もう一度大震災のことを来年の3月に考えてみましょうという集まりをしたいと思っております。西クラブさんでも中学生のソフトボール大会を震災後子供たちの支援という形で始められて、今も続いているという大変素晴らしい事業がございます。そういった各クラブでいろんな震災後に行われてきているものも整理をしていきたいと、みんなに紹介していきたいということと、それから復興している状況を世界に発信していきたいということから、復興フォーラムというのをやろうと思っております。今回、マーク・ダニエル・マローニー会長ご夫妻が来ていただいたのもその目的で来ていただいております。ですので、いろいろな所を見ていただいたわけですので、その辺のこともまた3月に整理をして皆様方にもお伝えをしたいというふうに思っております。そして、ポール・ハリスはもうお亡くなりになって70年くらい経つわけですが、生前仰っていたのは「人間が成し遂げたあらゆる業績の中で最も素晴らしいものは心と頭と手を完璧なまでに結集した努力の賜物である」ということを言っておられます。頭で考えるだけでなく、心を込めて行動に移していろんなことをやっていきましょうと。それが素晴らしいことにつながりますよということ仰っております。今RIでは、それを「世界を変える行動人」ということでロータリアンを表現しております。考えるだけでなく行動に移しましょうということ言っております。そして、マーク・ダニエル・マローニーさんは最後にロータリーの素晴らしさというものを皆さんにお伝えくださいということで4つのことを言っております。ロータリーの素晴らしさは人々をつなぐことです。ロータリーは会員だけでなく家族の参加を歓迎

します。ロータリーは職業におけるネットワーク作りと関係構築を促します。ロータリーは私たちを国際的なコミュニティと結びつけます。さっき4つの強調事項としてお話したものを、簡単な言葉で表現をしているものがあります。こういうことでロータリーは素晴らしいということロータリアンがロータリー自身がやっぱり感じていかないといけないと思います。最後に一緒に皆さんロータリーを楽しみましょうということをお話をします。ロータリアンがクラブの中で皆さん良いつながりを持ってこの活動を楽しむということがまずロータリー活動の基本になるということでもあります。その楽しさを地域に、そして世界に広げていくと。そのことで地域の方々が白河西ロータリークラブって素晴らしい活動をしているなど。私もできれば参加したいと思うような活動をしていただきたい。まずは我々が楽しみましょうと。楽しんで上で楽しい集まりに皆さんお誘いしましょうと。そういうことでこの一年、皆さんと共に楽しんでロータリー活動やっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

最後に私から中目会長に一つプレゼントを差し上げます。宮司さんにお坊さんの書を差し上げるのもなんですけど、これ寛容というポール・ハリスがよく使っていた言葉であります。日本語は使ってないと思うんですけど、日本語でいうと寛容ですね。ロータリーは寛容の精神でとよく言われると思いますが、奈良の室生寺の管主に書いていただいたものでありますので、飾っていただくかどうかかわからないですけど差し上げます。

